

中学生の「税についての作文」表彰式

港納税貯蓄組合連合会では、港税務署との共催により「税についての作文」を港区・大正区の中学生より募集したところ、659編の応募がありました。

優秀な作品に対して、11月19日(火)アートホテル大阪ベイタワー4階ボールルームにおいて、表彰式を行い表彰状と記念品を贈呈しました。

受賞者一覧

(敬称略)

【納税貯蓄組合大阪府総連合会 会長賞】

大正西五嶋 菜花

【納税貯蓄組合大阪府総連合会 優秀賞】

築港 石山 涼介

【港税務署長賞】

市岡東西 林 沢

大正西 芹野 真菜

【港区長賞】

市岡 奥泉 唯

【大正区長賞】

大正北 八百 美海

【公益社団法人港納税協会 会長賞】

港 桑平心 夢子

【近畿税理士会港支部 支部長賞】

港 南 永崎 宏樹

【港納税貯蓄組合連合会 会長賞】

市岡 山崎 真央

港 勝亦 七菜

市岡南 渋谷 萌恵

大正東 藤田 響

大正中 長濱 流也

大正東 宮本 海璃

大正中央 岡崎 大翔

大正西 榎藤 颯太

大正北 赤井 未空

【全国納税貯蓄組合連合会会長感謝状】

大阪市立築港中学校

納税貯蓄組合大阪府総連合会

優秀賞

大阪市立築港中学校 3年

石山 涼介 様

「身近でなく、身近な税」

私は、この作文を書くにあたって、まず、自分の今の税金に関する知識やイメージについてまとめる事にした。

私の税に関する知識としては、国税と地方税の二種類がある事。国税には、消費税、所得税、たばこ税、酒税、相続税等が、地方税には、固定資産税、自動車税や地方消費税等がある事を知っているぐらいであって、これらの内のほとんどが、存在を知っているだけで、その内容を詳しく知らない。この中で、最も馴染みがあるものを例にあげるとすれば消費税だろう。これは、中学生のほとんどがそうだと思う。さらに、そのほとんどが、消費税や税そのものに対して、良いイメージを持っていないのではないかと私は考える。

これは、何故か。必要性や使い道を理解する事が、できていないからである。この事は他の物事にも言えるが、その物事の必要性が理解できなければ、まるで、自分にメリットがないように感じ、その人からすれば、そこに残るのは、その物事の対価となる物、つまり、デメリットだけが残るとい状況である。

この状況は、有名な古代ギリシャの哲学者ソクラテスの「無知は罪なり、知は空虚なり、英知を

持つもの英雄なり」という言葉に、同じとは言わないまでも、近しいものがあるのでは私と思う。この考え方にあるように、まず、物事について理解しなくてはならないのである。なので、私も税の使い道や必要性について調べてみた。するとやはり、税が本当に大切な物だという事が分かった。もし、税がなければ、私達、中学生の学費や教科書も有料となったり、信号が止まる、さらには、ゴミ収集はなくなるし、公共の物の利用も有料になってしまう。これらの他にも沢山の問題が、起きると考えられているようだ。普段あまり、私達は身近には感じない税は、こんなにも身近で大切なものなのである。

では、今の私達、中学生が税に関して、できる事とはなんだろう。今は、私達は消費税しか納められていないという事も、分かった事である。さらに、中学生の経済力なら、大した額を納められている訳でもない。

ならば、私達にできる事は、その少ない消費税を納める事だけなのだろうか。

私は、違うと思う。それだけでは、まさに「知は空虚なり」である。物事を理解していても、何もしなければ、意味がない。

私は、2つの私達、中学生ができる事を思いついた。

一つ目は、税金でまかなわれている学校の物や施設を大切に使い、長い間使えるようにする事だ。

二つ目は、大人になって、他の税金を納められるようになった時のため、今から税について深く理解していく事である。

この2つの事を、しっかり行っていれば大人になった時、「英知を持つ英雄」の様に立派な社会貢献ができると私は思う。